

## 開会行事挨拶

国際啄木学会会長の望月善次でございます。

国際啄木学会旭川セミナーを企画致しましたところ、このように多数の皆様がお出かけくださいましたことを感謝申し上げます。

これも、旭川啄木会や北海道支部の御尽力の賜物であります。

それにしても、このセミナーに対する旭川の方々の協力は大変なものであります。

本日もこの後、御挨拶を賜りますが、西川将人旭川市長を初めとして全面的な御支援を頂戴しております。

実は、今月の十三日は、啄木の命日でありまして、盛岡(渋民)でも、「啄木忌」が行われたのですが、その際の盛岡市の出席は副市長でありました。機械的な比較を申し上げるわけではありませんが、旭川市の意気込みのほどを示す象徴的なことだと受けとめ、感謝致しております。

さて、開会行事につきましては、本セミナー開催の契機や推進力になりました近藤典彦元会長・名誉会員に講演を頂戴するわけですが、その紹介につきましても私が申し上げることになっております。

近藤元会長には、ここ旭川の出身で、皆様の方が良く知られておると思います。

( \* 当日は、予定していた、以下を省略した。 )

この旭川の旭川東高校から東京大学文学部国史学科、同大学院(中退)を経て、高校教師の後、群馬大学に勤務されました。『国家を撃つ者 石川啄木』(同時代社 1989)で 1990 年の岩手日報文学賞・啄木賞を受賞されました。その後も、啄木研究に欠かすことのできない『『一握の砂』の研究』(おうふう、2004)等の著書を発行され、近年も『一握の砂』(朝日文庫、2008)や『復元 啄木新歌集 一握の砂以後』(桜出版 2012)の出版を初めとして旺盛な研究を続けておられます。

講演にできるだけ時間を有効に使ってもらいたいと思いますので、本日はたった一つのことを申し上げたいと思います。

近藤典彦元会長・名誉会員は、啄木研究において、今までも学会を代表するような研究的成果を挙げて来られましたが、現在においても、最も熱く又深い研究を続けている研究者であるということです。その姿勢も真摯で鋭いものがあります。余りの鋭さに、私など時には「それほどまでされなくても。」などと思うほどであります。

こうした研究を踏まえた近藤典彦元会長・名誉会員の御講演は、必ずや皆さんの心を打つものだと確信致します。

以上、会長としての御挨拶と近藤典彦元会長・名誉会員の御紹介とを申し上げます。もう一度、御参会の皆様にご挨拶申し上げます。

ありがとうございました。